

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)右京区梅津神田町計画新築	階数	地上3F
建設地	京都市右京区梅津神田町48,29-3	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	62人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年5月 予定	評価の実施日	2013年9月2日
敷地面積	1,894㎡	作成者	積水ハウス株式会社
建築面積	1,079㎡	確認日	2013年9月3日
延床面積	2,761㎡	確認者	積水ハウス株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 76%
③上記+②以外の 76%
④上記+ 76%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 景観に配慮した色彩の外観で街並みから突出する事の無いように努め、周辺への圧迫感を和らげるような建築計画とした。また、住宅性能表示基準における劣化等級3相当を確保して、躯体材料耐用年数への配慮を行い、断熱材にはA種(ノンフロン)の吹付けウレタンフォーム・ポリスチレンフォームを採用し、オゾン層破壊や地球温暖化に対し配慮した計画とした。	その他 特になし	
Q1 室内環境 天井裏・下地・仕上げ・家具類等、F☆☆☆☆の材料で施工することによりシックハウス対策に配慮した。また、開口部を大きく設置して日光を多く取り入れられるよう配慮した。	Q2 サービス性能 住宅性能表示基準"3.劣化の軽減に関すること"における等級3相当を確保し、躯体材料の耐用年数に対する配慮を行った。階高設定をゆとりあるものとし、将来的な空間の変容性に対応しやすいものとした。	Q3 室外環境(敷地内) 共用部食堂兼コミュニティスペースは、テラスを介して建物内外を連関させる中間領域を形成することで利用者に心理的なくつろぎを提供する計画とした。またITV設備を適切に設置し、防犯性にも配慮を行った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル 地域産木材やグリーン購入適合品を非躯体材料に採用した。また、断熱材には発泡材がA種(ノンフロン)のものを採用し、オゾン層破壊や地球温暖化に対し配慮した計画とした。	LR3 敷地外環境 屋外照明に関して、広告物照明は設置せず、適正な範囲で計画して外に漏れる光に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される